

## 「2016鹿央里やま蓮まつり」写真コンテスト

### 【総評】

あの熊本地震から4ヶ月。被災家屋を覆ったブルーシートは減る気配もなく、いま残暑のなかで復興作業が進められています。今回の地震と豪雨の被害は広く熊本県内に及びましたが、幸い「里やま」古代蓮の散策道に被害はなく、例年通りに見事な大輪の蓮花が楽しめました。相次ぐ地震や余震の恐怖で眠れない夜を過ごされた方々にとって、里やま散策は何よりの癒やしになったかと思います。

さて「2016鹿央里やま蓮まつり写真コンテスト」、今回は125名323点の応募がありました。審査を8月9日、山鹿市鹿央市民センター2F文化ホールに於いて、鹿央里やま蓮まつり実行委員会 会長原文雄様を始め9名で行いました。

応募数につきましては災害後だけにいささか心配して居りましたが、皆様のご協力で昨年をやや上回る盛況。広い文化ホール一杯に並べられた蓮花の作品は実に圧巻でした。デジタル処理になって花は一層鮮やかに表現される様になりましたが、コンテストは相対評価です。カメラマンの一味違った個性と繊細な感性が順位を決めます。今回、惜しくも上位入賞を逸した皆さんの次の健闘をお祈り致します。有り難うございました。

2016.8.20.

小崎 宇一  
(熊日フォト・サークル副会長)



◎最優秀賞「待機中」 成清 平和 様 （福岡県筑後市）

【評】大きく膨らんだ蕾の上で、羽根を休めるシオカラトンボ。シンプルな構成ながら主役を演じるピンクの蕾と控え目なトンボのコラボは見事です。蓮の葉っぱではなく菖蒲の葉っぱで主役を包み安定感を持たせ、噴水で白くなった水面で画面のバックヤードを固めています。曇天でしょうか柔らかな光線で見事な作品に仕上がっています。



◎優秀賞「噴水のある風景」 松島 一美 様 （熊本県熊本市北区）

【評】晴天の朝、実に清々しい光景です。スイレン池を正面から広角レンズでチョイス。PLフィルターを使ったのか山陰の所為なのか、池面のでかりも無くパンフォーカスも見事です。構図的にも少ない蓮の花や葉を見事に収め、里やまの雰囲気がよく表現されています。



◎優良賞 「輝き」 上野 弘喜 様 (熊本県山鹿市)

【評】日差しの強い日の撮影には苦労します。この作品は下半分に主役を置いていますが、上部の脇役である蕾が周囲に同化して目立たず、何かバランスを欠いているように見えます。そこで一番上の蕾と陰の部分を少しカットして画面全体のバランスを考えては如何だったでしょうか。折角の蓮花が生かし切れてないようです。



◎優良賞 「フォーシスターズ」新 健 様 (佐賀県大町町)

【評】今年もハス池に展望台が設けられました。蓮花のベストショットを探すのは至難の技。そんな中で満開の4輪を見事に纏めました。露光もプリント仕上げも申し分無しですが、全体的に見て一寸欲張り過ぎのようです。写真は主役の見せ方とシンプルがベスト。次回もご健闘下さい。



◎優良賞 「華麗」 山本 昭信 様 (熊本県合志市)

【評】黒をバックにステッキを持った淑女が一人、斜めに被った帽子もオシャレ。花の上を飛び交う蜂さんも興を添えています。実に華麗な作品です。ツイストした茎の発見や満開の蓮花との出会いもラッキーですが、レンズのアレンジやフレーミングの技も見事です。



◎入賞

「蓮家族」宮本 久 様 (熊本市南区)



「朝の一刻」今村 好美 様 (大牟田市)



「祈り」宮本 育明 様 (熊本市中央区)



「葉っぱの傘」坂本 正幸 様 (合志市)



「魅せられて」池田 隆幸 様 (宇城市)



「凜と咲く」木原 進 様 (熊本市中央区)



「寄り添う」梅野 秀親 様 (荒尾市)



「雨上がりの睡蓮」徳永 清次 様 (大牟田市)



「安らぎ」木下 保之 様 (熊本市北区)



「瞑想」川口 大希 様 (熊本市中央区)

